

令和元年度岐阜県地域づくり人材養成講座・垂井町まちづくりリーダー養成講座
「垂井・未来宿」 第2回ワークショップ開催概要

日 時	令和元年12月14日(土) 13:30~16:00
場 所	垂井町役場 垂井ホール
コーディネーター	NPO 法人せき・まちづくりNPO ぶうめらん 代表理事 北村 隆幸 氏
参加者	17名(受講者16名、オブザーバー1名)
主催者	岐阜県環境生活部県民生活課 垂井町まちづくりセンター
内 容	<p>◆第2回講座</p> <p>1 グループワーク</p> <p>前回決まった5つの取組みテーマごとに分かれ、「地域課題解決の事業計画作成ワークシート」と「課題の深掘りワークシート」を作成しました。</p> <p>＜ステップ1＞取り組む課題を決める！</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を決める際は、ネガティブな言葉を用いた方が、今後検討する上で、考えやすい。 <p>＜ステップ2＞対象者を絞り込む！</p> <ul style="list-style-type: none"> たとえば「赤ちゃんを持つ母親」と一言で言っても、「産んで1ヶ月の母親」と「双子の母親」、「一人で育てている母親」では困っていることが違うため、メインとなる対象者の属性を細分化するとよい。 困りごとを考える時は、対象者目線で考えるとよい。属性を考える時に仮の名前をつけると、愛着が湧き、その人目線で困りごとを考えられるようになる。 <p>＜ステップ3＞対象者が何を求めているか、どうなりたいのかを考える！</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者のニーズを探することで、どんな社会になるとよいかが見えてくる。 <p>＜ステップ4＞現状を把握する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題はニーズの源泉であり、現状(事実)を深掘りすることで課題が見えてくる。 数字で把握することで説得力が増すため、資料や文献で調査するとよい。 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>調査法例) (1)統計局のホームページに掲載されている統計データ (2)県や市町村が提供する「統計からみた〇〇市の現状」などの統計資料 (3)図書館のレファレンスサービス</p> </div> </div> <p>＜ステップ5＞課題の原因を考える！</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を「なぜ、そうなのか？」と3回深掘りすることで、真の課題が見えてくる。 <p>2 発表</p> <p>グループごとに検討してきた内容を発表してもらいました。</p> <p>OA「地元のことを知らない」グループ…取り組む課題：垂井町の自慢ができない</p> <p>＜目指す姿＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「垂井町に住む若者たちが自分たちの町を好きだと思える社会」にしたい。 <p>＜現状＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者たちが垂井町の魅力を探す機会がなく、町外の「新しさ」に興味を持ちがち。 大人側も垂井町の魅力探す機会を提供していない。情報を可視化しきれていない。 若者たちが、垂井町に興味を持つ機会がない。



▲コーディネーターの北村氏

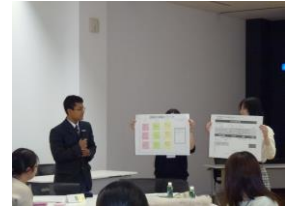
OB「交通の便」グループ…取り組む課題：垂井町の交通の便をよくする

<目指す姿>

- ・「電車通学をする高校生が通いたいと思う学校」にしたい。

<現状>

- ・垂井駅から往路しかシャトルバスがないため通学するのに不便。復路もシャトルバスを運行してほしいが、財源がない。
- ・夜になると通学路が暗くて狭いため怖い。街灯が少ないと感じるが、通学以外で、その道を利用する人が少ないため、設置してもらいづらい。
- ・電車の本数が少なく、特に名古屋方面の乗り継ぎが悪い。不便なため車利用者が多く、電車利用者が少ないため、改善されにくく、車社会になってしまっている。



OC「相川・環境」グループ…取り組む課題：相川を楽しむ

<目指す姿>

- ・「家族で楽しく触れ合える場所が身近にある社会」にしたい。

<現状>

- ・周辺に安心して子どもたちを遊ばせられる公園がない。一方、相川もゴミや犬の糞が落ちており、安心して遊ばせられる場所ではない。
- ・安心して遊ばせられる場所が周辺にないため、子どもたちを外で遊ばすことができない。

OD「若者が垂井を楽しむ」グループ…取り組む課題：若者が楽しめない

<目指す姿>

- ・「垂井町に通う高校生が、高校以外に楽しめる場所がある社会」にしたい。

<現状>

- ・垂井町に通う高校生が、高校が終わった後に楽しめる場所がないため、垂井町で遊ばない。そのため、垂井町に興味を持つ高校生が少ない。
- ・若者よりも高齢者の方が多いため、若者向けのおしゃれな場所がない。もしそんな場所があったとしても、高校生はお金をあまりもっていない(お小遣いが少ない)ため、儲けが少なく経営が厳しいのではないかと。



OE「観光的な垂井の魅力発信」グループ…取り組む課題：若者が集まる観光の場所がない

<目指す姿>

- ・「20代の若者世代に来てもらい、ATM を空にするぐらいお金をたくさん使用してもらえる魅力ある垂井町」にしたい。

☆具体的には…

- ・南宮大社や竹中半兵衛など歴史的なものを活用し、インスタ映えスポットにしたり、アニメやドラマで使用してもらい、聖地巡礼スポットにしたりするとよいのではないかと。
- ・若者の意見を取り入れ、垂井町の魅力を全国へ発信したい。

<現状>

- ・県外の人に、隣接する大垣市や関ヶ原町のことは知られているが、垂井町については知られていない。もしかしたら漢字の読み方が分からないかもしれない。
- ・インスタ映えや遊ぶ場所がない。また交通の便もあまりよくないため、若者にとって、垂井町に来る理由がないのではないかと。



3 垂井町長挨拶

各グループの発表を受け、早野町長より一言いただきました。

- ・若者の提言を垂井町の施策に盛り込んでいきたい。

◎第3回は、今回の内容を踏まえて、課題を解決するには、どんな事業をするとよいかを検討します。